

令和7年度第3回千代田区文化芸術プラン推進委員会 議事録

■日 時：令和7年9月19日（金）14時00分～15時30分

■会 場：千代田区役所4階 会議室403

■委 員：委員長 星野 泉

委 員 山崎 鯛介／田中 晴子／新井 巖

阿部 俊裕（欠席）／マライ メントライン

中田 治子（地域振興部文化スポーツ担当部長）

■事務局：地域振興部文化振興課長 武笠 真由美

地域振興部文化振興課文化振興係職員（2名）

議事次第

1 開会挨拶

2 議題

（1）千代田区文化芸術プラン（第5次）の策定について

（2）今後のスケジュールについて

3 その他

【配付資料】

資料1 千代田区文化芸術プラン推進委員会 委員名簿

資料2 千代田区文化芸術プラン（第5次）たたき案

（参考）千代田区文化芸術プラン（第5次）策定スケジュール

（参考）千代田区文化芸術プラン（第4次）

（参考）令和7年第2回推進委員会議事録

委員長

令和7年度第3回千代田区文化芸術プラン推進委員会を開会いたします。委員の皆様には大変お忙しい中、ご出席ありがとうございます。

本会議の終了時間は15時半を想定しておりますので、ご協力よろしくお願いいたします。

それでは配布資料の確認を事務局のほうで宜しく願います。

武笠課長

本日配布しました資料は、まず次第、それから資料1として委員の名簿をつけさせていただいております。本日は文化芸術拠点施設のうち2つの施設から、オブザーバーとして運営事業者様にご参加いただいております。ちよだアートスクエアの次期運営団体であるJ&J協力企業体よりJTBCコミュニケーションデザインの芦田様、九段生涯学習館の指定管理者である小学館集英社プロダクションの若林館長にご出席いただいております。

資料2としまして、文芸プランの第5次たたき案を付けております。その後ろに参考資料としまして、策定スケジュール案となっております。

配布資料の（参考）のところには第4次プランとあるのですが、もしご入用の場合にはご用意いたしますので、仰っていただければと思います。

それから第2回推進委員会の議事録をお付けしています。以上になりますが、過不足等ございませんでしょうか。

よろしいようでしたら、議事を進行したいと思います。

それでは星野委員長、よろしくお願いいたします。

なお、阿部委員は遅れていらっしゃるようですので確認中でございます。

委員長

それでは議題に移らせていただきます。

議題「（1）千代田区文化芸術プラン（第5次）の策定について」事務局からのご説明をお願いいたします。

武笠課長

それでは資料2に沿ってご説明させていただきます。

今回冊子のような形でご用意させていただいております。表紙のデザインは事務局一任ということで、桜の方の案で作成しております。

中身についてですが、前回7月31日の委員会では第1章から第4章の冒頭までご確認いただきました。

第1章と第2章につきましては、いただいたご意見をもとに修正しています。

第3章の体系については変更したところがございまして、前回ご確認いただいた時には、「2 創る」に施策が4つあったのですが、作業を進めますと「施策5 地域の個性と人々の交流により文化芸術活動を展開する」とした施策と「施策6 区内の多様な主体と連携し、新しい文化芸術の創出を図る」とした施策につながる事業が重なってきてしまいました。そのため、施策は「区内の多様な主体と連携し、新しい文化芸術の創出を図る」に統合し、3つにしています。こちら前回からの変更点でございします。

各施策につながる主な事業は、庁内で行った事業調査を踏まえて記載してございます。主な事業を実施する文化芸術拠点施設についても、●を付けてお示ししています。●の位置ですが、文化振興課以外が所管する事業には●がついていませんので、ご了承くださいたいと思います。

今回は 16 ページからの第4章をメインに見ていただきたいと思っております。

この度、事業を記入して更新を図っております。また、体系図の主な事業に該当するものは赤字としています。まず 16 ページが「重点目標1 保存し伝える」の部分です。「施策1 文化芸術遺産の保存・継承」には、表にて①から④の事業を位置付けております。「文化芸術遺産の保存」と合わせて、「暮らしの文化の保存継承」についても記載しております。

18 ページが「施策2 資源活用と情報発信」でございします。こちらには⑤から⑩の事業を位置付けまして、「文化芸術遺産の発信による価値向上」と、「デジタル活用による保存・発信」について、ということで記載させていただいております。

20 ページからが「重点目標2 創る」でございします。「施策3 文化芸術風土の醸成」には、⑪から⑲の事業を位置付けております。「日常生活の中で芸術に親しむことができる環境づくり」と、「まちの歴史や伝統、暮らしの文化を発見する」について記載をしております。22 ページが「施策4 創作活動の促進」でございします。こちらには⑳から㉔の事業を位置付けまして、「文化芸術活動を行う個人・団体等の創作活動を支援」それから

「発表、情報発信の場を提供」ということで記載しております。

24 ページが「施策5 多様な主体との連携」でございます。こちらには㉗から㉚の事業を位置付けまして、「地域の文化施設間の連携」と「国際交流による文化の創出」について記載しております。

25 ページから「重点目標3 育てる」でございます。「施策6 子どもの育成」としまして、㉓から㉞の事業を位置付け、「学習体験の機会の提供」それから「発信、表現する力の育成」について記載しております。

27 ページが「施策7 作り手の育成」となっております。こちらには㉟と㊱の事業を位置付けまして、人材の発掘や育成について記載しております。

28 ページが「施策8 支え手の育成」でございます。こちらには㊲から㊵の事業を位置づけ、「地域の文化芸術活動を支える人材の育成」と「国際交流・協力活動の促進に資する人材の活用」について記載しております。

以上、体系には43の事業を位置付けております。事業名称は一部未定のため、仮称としている事業もございますが、次回までに検討を進め、更新していくことを考えております。

今後、予算編成と絡む事業もございますので、編成が進むうえで、事業に変更が生じる可能性がある点はご了承くださいと思います。

29 ページからは、文化芸術拠点施設の今後の取組みについて記載しております。

区立施設としては拠点施設は4つですが、事業は4施設に限定せず、民間施設等とも連携・展開していくことで、区全体の文化芸術振興を図るということを記載しています。

下の図案等は現在作成中のため、次回までに更新の予定です。

33 ページからは、第5章の計画推進の章となりますが、こちらは次回までに更新予定でございます。

資料編の委員名簿等も次回までに更新予定でございますので次回ご確認いただければと思います。

では第1章から第3章までの修正箇所と、第4章の事業、第5章以降のイメージについてご意見を頂戴できればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

委員長

ご意見ご質問等ありましたら、お願いいたします。

写真が入っていなかったり、後ろの方がまだこれから、ということですよ。

送っていただいたものをざっと読ませていただいて、気が付いたところを申し上げます。

しょうがないといえばしょうがないのですが、「はじめに」のところに平成と令和があって、オリンピックのところは「2020」となっていたりして、時系列のイメージがピンとこないなど。元号を後ろに入れるか何かしないと、うまくつながってこない気がしましたが、仕方がないという事であれば、すごくこだわるという事でもありません。

それから「第1章 計画策定にあたって」の1ページの「計画策定の背景と目的」のところで、「多様な価値観」等、前回出た意見を入れていただきましたが、「世代間」の「間」はいらないのではないのでしょうか。

それから8ページのコラム「文化芸術施策に関する区民の意見」で、区民世論調査結果の分析について「78.7%の回答者が区の文化芸術イベントに参加したことはない」と回答しており、その理由としては、認知度の低さと参加する時間がないことが多く挙げられ、という記述はおそらく「図 14-1-3 参加していない理由」の「どんな活動があるかわからない」「時間に余裕がない」を指していますよね。

役所の活動では「住民に届いていない」とか「宣伝がきていない」とかはよく言われる話ですが、それよりも「どんな活動があるかわからない」と言う人が、「わかっていなかったかどうか」が疑問。「認知度の低さ」と書くと役所の側が悪いような感じに聞こえますが、これでいいのかなと思って。そういう意味では「関心がない」に近いわけで。

勉強したくないと言っている学生にどうやって無理やり勉強させるか、みたいな話で、まあ「関心がない」のは教え方が悪い、ということにもなってしまうのかもしれませんが。

ただ、「認知度の低さ」というと「ではもっと宣伝しましょう」ということになりそうなので、あえて言えば、「文化芸術への関心が十分ではない」ということのような気がするんですが。

ちょっとその辺が、「認知度の低さ」と書いてしまうの

はどうなのかなあ、という気がしました。「こう変えたらいいんじゃないか」という代案は思いつかなかったのですが。

これは複数回答ですよ。そうするとたぶん「時間に余裕がない」のと「どんな活動があるかわからない」のは同じ人ですよ。時間に余裕がないから、文化芸術に関するホームページの資料とか案内とかを、そもそも見る気も無いし。

もう少しそういうものに関心を持ちましょう、という話になるのか。どうしたものか。という風に思いながら、「認知度の低さ」という表現は変えたほうが良いのかなと感じました。

あとは絵が入ってからまた確認しますが。でも流れとしては、こういう感じで良いと思います。

メントライン委員 「どんな活動があるか分からない」と「時間に余裕がない」問題は確かにあるなと思ひまして。

時間に追われているからこそ、自分から情報をゲットしにいかないですよ。情報が勝手に届くのであればいいんですが、でもいらない情報が来たら迷惑、とか、そのあたりの塩梅だと思いますが、確かに考えていかなければならないなと。「どう届けるか」について。

委員長 これはまた大事な問題ですよ。あまりここで議論してこなかったですけども。

「時間に余裕がない」というのは、仕事が忙しくて時間に余裕がないといったら、まあしょうがないですが、たぶんそうではなくて、自分の推しには関心があるけれど、文化芸術は推しではない、ということだと思うので。関心を持たせるためにどうするか、という基本的な課題なのかなと。

そういうことを書いていないので、どこかに一言二言書ける場所があるとよいけれど。

田中委員 広報は難しいですよ。

委員長 ここに限らず、福祉の施策でも、結局「そんな政策しなかった」と、教えないのが悪いとなるわけで。

田中委員 それでいうと「千代田区文化芸術プラン」という名前自

体が、「ああ、プランか」という感じで終わりますよね。具体的に自分がどんな利益を得るのか、どんな興味の受け口があるか、に繋がらない。タイトルは変えようがないですが。「こういうものを指標として千代田区が動いている」ということの説明なので、これをもとに具体的に区民がどうかする、ということではないのかな、という気も。

この内容がしっかりして具体例や実例をみていって「文化に興味がある人はこんなことをやっているんだ」とわかれば入り口にはなる。

今回、文字が見やすくなったりとか、視覚に訴えかけるとか読みやすくする、という入口が低くなったことは一つよかったことかと思いますが、じゃあ興味を持った時に具体的な連絡先はどこだろう、とか、QRコードがほしいな、とかというところはもしかしたらあるかもしれない。でもそこまで入れると何が何だか分からなくなるので、それを考えると難しいな、と思います。

あとは細かいところですが、3ページの三段落目の一行目で「教育施設が数多く設置され、学生の街となるとともに」のあとに「、」かなと。「神保町」と「学生の街」は分かれていたほうが良いかなと思います。

あと、下から三段落目の一番下とその上が「ます」「ます」で並んでいるので、どちらか「た」で終わると良いかな、と思いました。

あとは、継続的に自分を高めていく仕組み、というのが見えたらいいなと。単発で体験というより、きっとやっていращゃると思うんですけども、継続的に何か一つのテーマや学びたいものに合わせて、他の人よりも詳しく、そしてスキルが高まる、みたいな、そういうものが老若男女を問わずあるといいな。やめたいと思えばやめられるけれど、継続したら自分を高められる、そういうものがあると、私としてはそのプログラムに対して価値を感じるかなと思います。

タイムリーな限定感というのも気持ちを高めるものではあるけれど、これはしっかりした区のプランだから、タイムリーな限定プランというよりは、「この区だからこういう人材として成長できる」とか、そういうものがあるといいなと思いました。

ラン（第一次）」と漢数字を、年号に関しては算用数字ということで使い分けをされているのだと思いますが、第1章の1ページ目で、「第5次」と5だけ算用数字になっているので、そこらへんは統一されたほうが良いのではないかなと。細かい所ですが。

委員長 目次もそうになっていますね。

武笠課長 第5次プランから、算用数字に変えたいと思ひまして、5次から変えております。四までは漢字で来ていたのですが。

委員長 もとの表記のままにしないと問題があるでしょうか。

武笠課長 区の他の計画では算用数字を使っているのですが、文芸プランはずっと漢数字できていて、それがいけないわけでもないのですが。

新井委員 一つの文章のなかで混在しているというのは、あまりよろしくないのでは。事情が分かればそうなのかな、と思いますが。例えば、どこかに注釈をつけるとかしてはいかがでしょうか。「第5次以降は算用数字で表記します」とか。校正ミスみたいに見えてしまうので。

委員長 では全部算用数字にして、「第四次までは漢数字でした」と注釈をつけるのが良いのでは。

新井委員 それから、これもちよっと重箱の隅をつつくような話ですが、「4 計画における区の文化資源」のところで、上から5行目、「旗本屋敷が並んでいた麴町地区には政府関係者や」とありますが、単純に読むと麴町地区に旗本屋敷が並んでいたと思われてしまいそうですが、厳密にいうと旗本屋敷が並んでいたのは番町地区の方なので、「番町麴町地区には」とした方が、バランスとしては良いのかなと思います。歴史も感じさせる話にする、という事であれば、そういうところも正確に表現したほうが良いかなと思います。ただ、麴町地区は商業地ですので、分けて考えたほうが良いかなと思いますが、ここでそこまでやると本来の目的にそぐわなくなるので、そこまではしなくてよいと思います。

あとは今更ですが、後半の第4章の「施策の展開」の項目ですが、そこまで麗々しく掲げるものかな、というものもある気がして。

例えば「昔遊びの伝承」や「昼休みコンサート」は、もちろん良いことなんですけれども、「〇〇コンサート」というのは私の町会でもやっていますし、そんなに麗々しく重点項目として、「施策」と取り上げる事でもないような。ただそういうものを外してしまうと、今度は書けることがとっても少なくなってしまうので、感想と目的とが合致しなくてアンビバレントな気持ちなんです。

そのほか「街歩き」のことなんかも、神田地区だけのことを書いてあるし。実際に麴町地区で街歩きはあんまりやっていないので、しょうがないのですけれども。

あと国語教育として「ビブリオバトル」を書いていらっしゃるけれども、これも小学生なんかが自分の「推し」の図書を使って戦わせる、ということなんでしょうか。

武笠課長

お互いおすすめの本を紹介し合って、みんなが一番読みたい本を決める、というイベントです。

新井委員

良いことではあるんですけれども。

田中委員

例として、岡山の美術館で、学芸員が自分の推しの作品をラップでバトルするというのをやりました。

ビブリオだと確かに仰るように、あちこちで既にやられているので、スキームや、やり方のノウハウは出来上がっているし素晴らしいものだし、安全牌ですが、「どこでもやっているな」という感じがする。やられていなくて初めて導入するということに意味はあるけれども。岡山の件は、学芸員もみんな素人だったけれども、結構ラップでもできちゃったらしく、2回までしか続かなかったんですけれども。

そういうちょっと何か仕掛けを入れて楽しくなるような、自分の好きな本をラップで表現するとか、「じゃあ誰に学ぶんだ」ということにはなるんですが。もう少し「変さ」が足りないというか、「変」な感じで、千代田区で初めてやるようなことがあったらいいなとか。言うほうは簡単ですけどね。

武笠課長 実はビブリオバトルは（仮称）とついているとおり、仮置きの実業でして、今後変更の可能性が高いものにはなりません。

田中委員 新たに習った発声方法でラップで、訓練成果をビブリオバトルで発揮する、とか何かないですかね。
そういうのって、案を作る人にどれだけ実行力があって、情熱があって、というところなので。そういうものって、その人がやめると続かなくなるので、持続可能で面白いものがあるといいなと思います。

武笠課長 ビブリオバトルは、「ちよだ文学賞」を 20 回を区切りにいったん終了としまして、また新たな事業をやろうとしているところです。
読書推進につながるようなもので、神保町ブックフェスティバルとも連携できるような事業を考えているところです。

田中委員 京王線で薄い冊子を配っていて、千歳烏山に行くと、実際に在る所をつかって謎を解いていく。で、謎を解いた先に答えがあるというふうな、歩きながらスマホでその土地のことを知って、謎も解いて、というオリエンテーリングのような本を出していた。
それを作ったのはプロだけれども、なかなか画期的で新しいことだなと思ったんですけども。
探検をもとに子供たちがその土地を歩く、みたいなことで、小学校の先生も授業に取り入れて地域を学ぶことに助かって、それでできるのも新しい事業になるのかもしれないなとその時は思いました。
京王線がやっているのか、世田谷区ではなかったと思いますが、世田谷文学館があるので、そういう土壤があるせいかもしれないですけども。
冊子を開いてみると、料理人になる女の子が新しいメニューを考えるように言われて、そのメニューを完成させるために、謎を解くと自分の願いが叶う、という親しみやすいストーリーでした。

メントライン委員 学生たちが作ったらベストかもしれないですね。

田中委員 そうですね。街歩きをした結果学生たちが作ってくれ

て、それにお金が出て、子どもたちがそれをもとに一緒に街を歩くとか、そこまでなったらほんとにすごいですよね。

新井委員

街歩きで、さっき「神田しかない」と言いましたが、麹町地区は本当は文学散歩をやれば、圧倒的にうまくできるはずなんですよね。世田谷区には世田谷文学館があるけれど、千代田区には世田谷区の何倍も作家がいたにもかかわらず、文学館がない。

これは少し遠大な話になってしまいましたが、最近の国語教育では、あまり文学作品は取り上げずに、実用のある、例えば「駐車場の契約書の書き方」などを教えているらしいですね。

そういう面で、地域にいた文学者の作品を読ませるためのビブリオバトルをやるとか。

国木田独歩なんか、高校生はほとんど知らないそうですね。名前も知らない。昔は『武蔵野』で必ず教科書に載っていたんですが、今は全部なくなってしまったと。そういう、本来日本文学のなかから取り上げていくというのがあったと思うのですが、今は面白いものばかり取り上げていくのが傾向としてあると思うんですけども。確かに小学生にとっては『武蔵野』読んでも「武蔵野ってどこ？」と面白くないかもしれないが。武蔵野は新宿や渋谷なので、今回のプランに入れるのは難しいと思います。

何かやっぱりそういう、芯になるものを入れて、どこでもやっているような感じの物ではなく、区の事業として掲げるのであれば、独自性のあるものを入れたほうがいいのではないかなと思います。

田中委員

児童文学の先駆者みたいな人は千代田区にいないでしょうか？

新井委員

児童文学ではないですね。

田中委員

もしかしたらマップはお作りいただけるのかも。ちょっとあざといかもしれませんが、漫画みたいにしてもらって。それを読みながら文学者のつながりとか時代を知る、という風な仕掛けでいくと面白いかもしれません。プログラム作りはなかなか大変ですよ。

- 中田部長 「千代田のさくらまつり」を今年やったときに、街歩きということで「幻の浮世絵と本の街」という街歩きを計画して、おそらく大学生が考えてくれたものですが、抽選でホテルの宿泊券とか色々グッズが当たるということでやっていました。
結果は聞いていないのですが、街中で広げている学生さんも結構見かけたので、結構やっているんだなという感じがしました。
街中では始めているところはあるかな、と。
- 武笠課長 「謎解き」や「文学散歩」は面白いなあと思いますね。
- 田中委員 それが地元をたどるようなものであれば。
- 中田部長 区のほうで、いろんな博物館があるので、スタンプラリーやシールラリーはやってたりしています。
平和学習でシールラリーをやったのですが、意外に好評で。平和学習はなかなかとっつきにくいですし、戦後80周年ということでやったんですが、意外に好評でびっくりしました。皆さん回るのが好きなんだな、と。ものを集めたりですね。
- メントライン委員 年齢層はいかがでしたか？
- 中田部長 結構おじさんが一人で回っていたり、若い人もいたり、と、幅広く。
あんまり来ないと思ってグッズもそんなに用意していなかったのですが、すぐ無くなってしまったということでお声がけもいただいたりしました。
- 田中委員 健康にもいいし、好奇心も刺激されて、いいですね。
- 中田部長 こういうことが「こんな所に博物館があるんだ」ということを知るきっかけになっているんだなと。
- メントライン委員 観光協会も謎解きイベントを以前実施していましたよね。その文学バージョン、だったら長いスパン使えるような気もするので、いいかもしれないですね。誰が作るのか、という話になりますけれども。

新井委員

子ども向きに文学散歩のテキストを作ってもいいかなと思いますね。

ただ、施策にも入っていますけれども、「まちの記憶プレート」も少ないんですよね。以前、番町文人通りのプレートを作ったんですが、随分よく見ている人がいてですね、それを見て辿って歩いて行こうかと思っても次のところにたどり着けないんですよね。いくつかはあるんですが、そういう面ではなかなか難しい部分もあるけれども、千代田区には「まちの記憶プレート」の対象になるものの宝庫だと思うんですね。石を投げれば何かに当たるくらいに数が多いので、それを全部建てるのは大変だろうと思うんですけれども。そういう形で、「ここにこういう人が住んでいたんだ」というのがわかると面白いと思うんですね。

番町文人通りの説明書きはほとんど消えてしまって、区で何とか補助してくれないかなと思っているんですけれど。余計なことですみません。

武笠課長

「まちの記憶保存プレート」は所管のコミュニティ総務課のほうで見直す、ということですのでその結果どうか、ということと、今後はデジタル技術を活用して、そういったまちの記憶もわかるようになると良いかな、というところもありますので、あわせて検討したいと思っています。

山崎委員

巡るといっても、点があるだけだとアプローチしにくいので、「おすすめルート」が松竹梅であると良いなと思うのですが。

新井委員

それはずいぶん前に作ったことがありますね。

山崎委員

その反応ってどんな感じでしょうか。

田中委員

スポットツアーというアプリがあって、まさにその、「おすすめコース」をアプリで提供してくれるんです。民間でやっているものなんですけど、それを利用して、企業や個人がスポットツアーをつくることができ。たまたま千代田区に来た人が、位置情報から近い名所を検索すると、どう回るか、というツアーがバーッと出て

くる。

例えばそういうものを利用して、「ここに行けばスタンプがもらえる」「ここに行けばまたスタンプがもらえる」で、スタンプを貯めると、特別な情報をもらえて見ることができる、そういうものをJRの方で利用して、ツアーを東京駅でつくったことがあります。

LINE はセキュリティの問題でダメだったけれども、何かそういうものを利用してツアーを作って提供していく、というのも良いかもしれないです。

山崎委員

マップを作るというのは結構大変な作業ですが、既存のオープンソースを使いながら見どころをお勧めするというのは更新もしやすくなるのかなと。自分がそういうのをササっとできると一番いいんですが。

新井委員

番町出張所の連合町会のイベントで、番町麴町地区を回る5コース、結構わかりやすいものを作ったんですね。区で、番町麴町に限らず、神田の方でも全地域でそういうものがあると良いんじゃないかと。

田中委員

それをスポットツアーにあげると良いかも。

山崎委員

「これが良かった」等の評価もしてもらって。

田中委員

そこに使う写真は、この事業のなかで「アーカイブ事業」があるから、そういうものを活用して。「10年前はこんな画像でした」というのが、スタンプが押されると見られる、とか。

新井委員

ポイント制みたいな作って、何ポイントたまると商品がもらえるとか。

武笠課長

ありがとうございます。色々お知恵をいただきましたので、5年間の計画にはなりますが、その中で反映できるようにしたいと思います。

田中委員

せっかくだから、楽しいものの案の一つのなかで、「やりたい」という人がいると、そのモチベーションのもとでいいものができると思うので。そういう人の意見を尊重して進めていただければと思います。

武笠課長

ありがとうございます。貴重なご意見をいただきました。

はじめに星野委員長にいただいた、「世代間」の「間」を取るとか、そういったご意見は反映して更新したいと思います。

それと、「認知度の低さ」の件については、見直しをかけるとともに、アートのなものに限定しているわけではなくて、暮らしも含めて文化ですよ、と言っているプランなので、暮らしに文化が根差しているということをはかっていただけるような取組みというのもできればなと。どこかに表現して入れたいと思います。

委員長

自分が関心があるものを「推し」と表現したけれども、それ以外について、「多様性」というか、色んなことに関心がなくなっているの、そこら辺をなんとかするという意味は大きいですね。

関心を持つようにしてもらうために、このプランが影響を少しでも与えられるといいですけどね。

山崎委員

わりと若い人もお年寄りも、何でも興味を持つような気がしますけどね、昔に比べて。昔のほうが人の言うことは聞かないでこだわりが強かったような。

何でも聞いてみようというリベラルな感じは、昔よりは強いと思うのですけれども、その入口に入れるまでなのか、開き方の問題じゃないかなあという気も。それか、ネタがミスマッチか、という。

委員長

今日いただいたご意見は、「こういう案があるといいな」ということですが。おそらくこの掲載している事業は、それぞれの部署から上がってきたものということですよ。それに対して今後、「こういうのもやって」という議論も可能なのでしょうか。

武笠課長

先ほどいただいた「謎解き」や「文学散歩」などのアイデアは、貴重なものとして受け止めさせていただいて、我々もできそうなものがあれば取り組みたいと思います。

委員長

「文化事業助成」事業の時に申請出すとか、するといい

のかな。

武笠課長

区民のグループの方がそういう案を出していただいて、それに対して助成していくということももちろんあります。

委員長

それから以前に比べると、桜や景観に関する事業の記載があっさりになったんですね。施策の1や2ですが。

武笠課長

事業の項目としては残っているんですが、「どんどん指定を目指していく」というものとはちょっと違ってきましたので。

中田部長

すでに軌道にも乗ったということです。

委員長

さっき話題になったビブリオバトルは「ちよだ文学賞」が抜けたところで、入れた感じですよ。

新井委員

子どものほうが抜けたんですよね？大人もですか？

武笠課長

大人も子どもも両方終了しました。

田中委員

「ちよだ文学賞」はけっこう華やかに始まったものだから、それに代わるものとなると大変ですよ。なおさらそれだけに、千代田区に特化した何かがあったほうが良いような気がします。「ちよだ〇〇」みたいな感じで。

委員長

活字文化が消えちゃいそうですからね。あと20年で新聞もなくなるらしい。40代でも読む人があんまりいなくて。そうすると、読み物とか小説とかじゃなくて、すぐさま役に立つ契約書とかを勉強しなくちゃ、となるんですね。

新井委員

たぶん文部省もそう思って、そういう方針を立てたんだろうと思うんですけども。けどそれは、大人になって実際に経験して学べるものだから。高校生の時にそんなの読ませてもしようがない。契約書の書き方なんかも。別に文学に限らないけれども、基本の「き」はマスターしないと。

- 田中委員 そういう授業があってもいいけど「国語」じゃない、ですよね。
- 新井委員 作家達は怒っていますよね。2，3年前は文芸誌なんかで特集があったんですが、「公教育の在り方」みたいなのが。最近はそういう話も全然出てこなくなりましたが、諦めたのかどうかわかりませんが。
- メントライン委員 一応、感情が入らない文章の書き方も結構重要なので、感想文ばかりになってしまうと個人的すぎる。感情が入らない文章となると、契約書なのかなと。「いろんな文体があるよ」という授業なんじゃないかな、と私は推測しているんですけど。契約書「だけ」だったら辛いですよね。
- 委員長 読解力が落ちていると最近言われていますが、読解力と同じく、人が喋っているときも「どういうことを思っているんだろう」と相手の気持ちになるという訓練もされていないという、これはこれでかなり怖いところ。それを千代田区の文化芸術で何とかする、とかだと素晴らしいけど。これ以上悪化しないための。
- 田中委員 そうなるともう、全国のモデルプランですね。
- 新井委員 最近はSNSで誰かが発信すると、言葉尻をとらえて非難する、というのが非常に多くなっている。要するにそれは読解力がないからですね。それは本当に今後どんどん増えるんだろうと思うので。
- 田中委員 その反面、無料で小説が読めて、小説家を目指す人が投稿できる、みたいな仕組みのサイトが人気だったり。それがアニメーションになるとか。そういう市場があるという事なので、それを文学の本来持っていた、プロの極みの世界にどう持っていくか。アイデアやキャラクターだけじゃなくて。そこに自治体が入っていくと面白くなるのか、深みになるのか、ちょっとわかりませんが。
- 武笠課長 情報リテラシーが問題視されているなかで、それを支え

る力として読書が有効だということが言われています。
文化振興課の中に図書館係もあるので、読書活動の推進も入れつつ、今回のプランの事業には図書館系の事業も入れさせていただいたりはしています。

「ちよだ文学賞」につながるような事業も、読書活動の推進につながるようなもので、と考えているところはございます。

田中委員 文章力は落ちているんですか？

メントライン委員 落ちているらしいです。各文芸賞の審査員の方に話を聞くと、応募作のレベルがどんどん下がっていく、というのもあって、それで賞がなかったり、という背景もあるそうです。皆さん厳しい方ではあるんですけども。

武笠課長 新聞を読んでいる人のほうが選挙の投票率も高いとか、読解力のある人のほうが色々な面で効果としてもいいものが出てくるとか、はあるようなのですが。
ではどうしたら本を読んでもらえるか、活字の文化を今後どのようにつなげていったらいいかは、私たちも手探り状態です。

山崎委員 フィクションの小説だけでなく、日常を記述する力だとすると、先ほどの「街歩き」の感想を書くとか。要するに頭で組み立てるだけではなく、それを出す機会というのが少なくなっているという事かと思います。
文学が独立するのではなくて、横断的に、「文化芸術はどれかが欠けると成立しない」というスタンスでやったらいいのかな、という気がします。

メントライン委員 芸術というのは自己表現の一種ですよ。受け止め方が色々あると思いますけれども、意図している受け取られ方がるのであれば、それをどう伝えるか、という訓練が大事なんじゃないかな。何か伝えたいのであれば、「どう伝えるか」みたいなものが学べたら、と。

山崎委員 まず「伝えたいこと」がないと。経験する前からスキルを求められちゃうと、みんな言葉を出せなくなってしまう。というのを最近つくづく感じます。
言語化が下手というよりも、話すべき内容をイメージと

して持っていない。

田中委員

となると、体験が先、ということでしょうか。

山崎委員

そう思いますね。それを共有する時に、言語化が必要になるわけで。

委員長

やはりコミュニケーションの場みたいなものを増やす仕組みが重要ですね。既にだいたい入っているのですが、もっとミクロに、人が集うような場を作るという。それが一個一個に活きているといい。

武笠課長

施策8の「コミュニケーター育成プログラム」は今回アーツスクエアのほうで新たにやろうとしている取組みではあるのですが、東京都美術館で実施されているアートコミュニケーターの手法を使って、少しアレンジも加えつつ、在勤在学の区民に対して、手法を学んでいただいて、また新たな交流を起こしていただく。自ら勉強したり、視点やスキルが高まるプログラムとなることを図っているところではございます。

山崎委員

これはかなり具体的に準備ができているものですか？

武笠課長

アーツスクエアの運営事業団体から提案されている事業で、やりたいと考えているものです。

山崎委員

これは相当人気が出ると思う。コミュニケーターをやりたい、興味ある、という人はいろんな世代に多いので。教えるというか、伝える側に回りたい、という人は相当いるんですよね。これを軸にしていってもいいんじゃないかなと感じました。

委員長

ここをもっと増やしたら、賑やかになるんじゃないですかね。

山崎委員

全てに関わってくるんですよね。さっきの、いろんな分野に横断的に関わる、という話でいうと、これが一番全体に関わると思います。

委員長

アーツスクエアも写真が入りますか。工事中で、まだで

きていないですが、どうなりますか。

武笠課長 今工事中なので何を載せるか、ですが、外観は大きくは変わらないので。

委員長 今の話と結びつけるのであれば、コミュニティスペースやカフェとか。

武笠課長 前と同じようにコミュニティスペースとメインギャラリーのかたちで並べていますけれども、ここに何を載せるかも考えていきます。

山崎委員 一枚イメージパースみたいなのがあればいいのでは。事業者から出ているものがあれば。

委員長 「対話」みたいな絵は欲しいですね。

山崎委員 そういう絵を書いてもらってもいいかもしれない。

委員長 「コミュニケーター育成プログラム」「国際交流ボランティアの活用」あたりをもう少し具体的に、期待が持てる、明るい未来を感じられるような記述になると良いですね。

山崎委員 それが育つとどんなことができるか、みたいなことを織り込んでいただくと良いと思います。

新井委員 そうすると何ですが、第3章の頭の「文化芸術を通じて豊かな区の未来を拓く」は具体的にどうなんだろう、言葉だけにはなっていないか？という気もします。区の未来はともかくとして、そもそも文化芸術を通じて未来が開けるかという、大きな命題ですね。今そこまで深掘しても仕方ありませんが。

田中委員 内容はこれからまだ具体的になるんですよ。日比谷図書文化館もしっかり色々活動しているはずだけどアーツスクエアと比べると文字数が少ないような。

武笠課長 施設の取組みについては更新が間に合っていないところがありますので、これから更新していきます。

委員長	<p>他にはよろしいでしょうか。</p> <p>それでは2番目の議題ですね、今後のスケジュールについて、事務局からのご説明をお願いいたします。</p>
武笠課長	<p>本日は貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。</p> <p>参考資料にスケジュール案がございます。本日は9月19日の「素案検討③」となっているところですが、次回は10月に今回いただいたご意見を反映した素案をご確認いただき、また更にご意見をいただく想定であります。</p> <p>その後12月初旬には計画素案を確定させたいと考えております。</p> <p>1月5日から26日にパブリックコメントを実施しまして、区民の皆様に素案に対して広くご意見をいただきたいと考えております。2月にはパブリックコメントを踏まえた修正や最終的な調整を行いまして、3月の策定を目指してまいります。</p>
委員長	<p>次回は10月31日ということでございます。</p>
武笠課長	<p>候補日が一日限定で大変恐縮ですが、午後2時半からの開催でできればと思います。</p> <p>会場は区役所6階の特別会議室を予定しております。</p>
山崎委員	<p>私は予定があるので欠席いたします。</p>
委員長	<p>それでは特にご意見なければ、第3回千代田区文化芸術プラン推進委員会を終了といたします。</p> <p>ありがとうございました。</p>